

平成26年度 後志地区
ボランティア連絡協議会研修会
参加報告

=平成26年5月31日(土) 開催=



研修会に参加して

積丹町社会福祉協議会

事務局長 高野 善文

当日は長万部町ボランティア連絡協議会顧問の吳敏弘講師より有珠山噴火時の災害ボランティア活動について、実体験に基づきユーモアも交えながらご講演をいただきました。ボランティアに大切なのは実践第一、自分が生かされていることを知る、一度きりでは無く10年は続ける積み重ねが大事、「生まれて良か

った、生きて良かった、住んで良かった」と自分の地域を思い今後もボランティア活動を行いましょうという言葉がとても印象的で温かく、強い思い、楽しさ、仲間作りや人との繋がりの大切さを考えさせられたご講演でした。

やはりボランティアは色々な意味で自身が楽しめる活動を行うことが大切な事の一つなのではと思いました。

また当会としても社会状況が刻一刻と変化し、福祉ニーズが多様化している中、ボランティア活動はさらに必要不可欠なものと考えられます、支えあいと住民が主体になれる環境作りを目指し、より良い地域福祉活動ができるよう努力していきたいと思います。

最後になりますが研修会関係者の皆様、お忙しい中開催にご尽力いただき誠にありがとうございました。

平成26年度 後志地区ボランティア連絡協議会
活動推進会議（研修会）参加報告

=平成26年11月16日(日) 開催=

ボランティアから学んだ大切なこと

俱知安中学校 足立 涼悟

先日のボランティア連絡協議会研修会では、多くのことを学び、知ることが出来ました。その中でも、特に大切だと感じた二つのことを書きます。

一つ目は、世代をこえた交流の楽しさです。僕は自分より年上の方と交流しました。すると自己紹介の時からとても楽しかったです。なぜなら、僕たちの世代とは違う話をたくさん聞けたからです。世代の違いはたくさんのことを見つけるという点でも楽しさがありました。

二つ目は、人ととの触れ合いの大切さです。やはり、人と実際に触れ合うことで繋がりが生

れます。これは今後の人生の中でもとても大切なことだと感じました。

このように、ボランティア連絡協議会で学んだことをこれから的生活

に活かしていきたいです。また機会があれば参加してみたいと思います。

「笑顔」の大切さ

俱知安中学校 本郷 紗乃

私は今回の講演会に参加させていただいた気づいたことが二つあります。

一つ目は、このような行事に積極的に参加してくださる方々の多さです。後志地区全体から多くの方々が集まり、楽しそうに交流する姿を見て、「後志地区の人は明るく元気で、人との関わりを大切にしている人が多いな」と感じました。そんな後志地区に住んでいることが嬉しく感じられました。

二つ目は、参加していた方々みなさんの笑顔です。東川広美先生（しりべし学園成人寮生活支援員）が教えて下さったレクリエーションも最初は恥ずかしかったですが、みなさんの笑顔に助けられ楽しく交流することができました。

私は、今回の講演で「笑顔」の大切さを改めて実感しました。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



講師 吳氏



講師 東川氏



小野会長(中央)と足立さん(左)本郷さん(右)



ぼてとつうしん 第50号

発行／後志地区ボランティア連絡協議会

〒044-8588 虹田郡俱知安町北1条東2丁目 後志合同庁舎
北海道社会福祉協議会 後志地区事務所内
TEL. 0136-21-2945

2015年3月

後志ボランティア連携だより

ぼてとつうしん

第50号

平成27年3月27日

ぼてとつうしん50号を迎えて

後志地区ボランティア連絡協議会 会長 小野 幸子

後志ボランティア連絡協議会が出来て、その何年か後、1982年（昭和57年）から後志ボランティア連携だより、現在のぼてとつうしんが発行されてから、50号を迎えました。50号は50年ではなく最初は1年に2回発行されていたので33年になります。



管内のボランティア活動を掲載したり、研修会に参加しての感想や、ボランティアグループの悩みや地域福祉に貢献したこと、さまざまな活動がありましたが原点は誰でも、どこでも、いつでも、できるのがボランティアなので、心の働き、この（こころ）を持っていなければできると思います。

その当時から中学生、高校生とともに活動し世代をつなげたことは昔の通信を見てよくわかります。

地域や対象者の抱えているニーズを絶えず検証していくことが今でも変わらないと思います。

ボランティア愛ランド北海道2014で講演されたノートルダム清心学園理事長の渡辺和子先生の大ベストセラー〈置かれた場所で咲きなさい〉の本は幅広い世代から支持されています。講演では聴衆の一人ひとりの心に染みる混迷の時代を生きる糧となるようなお話しを頂き、時には笑いを誘う先生の語りに参加者はすっかり聞き入っていたと道社協の明るい社会No.674に掲載されています。

35歳で学長になり現在85歳ですが、先生はこの置かれた場所で咲きなさいの美しくなる3つの化粧品は

1. いつもにっこりと笑うこと
2. 人の身になって思うこと
3. 自分の顔を恥じないこと

と言っておられました。

この言葉はとても素敵で化粧品と同じにこのことを身に付けるということでしょう。

この言葉はボランティア活動をしている私たちにも言えると思います。もう高齢だから、とか言わず、自分にできることを、みんなで勇気をもっていつも笑顔で2015年はみんな飛び出しますボランティア活動に!!



人とつながる喜びを

後志地区ボランティア連絡協議会

副会長 荒井 博明

2014年日本列島は春から異常気象による災害が多かった年でした。

特に記憶に残る土砂災害としては、8月10日に起きた広島市の土石流災害や、御嶽山の噴火や、年末近くに起きた長野県白馬村の土砂災害では、地域の絆により真夜中にもかかわらず全員が救助されるという明るいニュースもありました。

こうした災害には、全国各地より多くのボランティアの方々が参加され、復旧活動に汗を流している姿に、感銘を深めております。

後志地区ボランティア連絡協議会は、毎年研修事業を進めており、毎回多くの参加者が一堂に参加され、ボランティアについての研修を進めており、人とつながって得られる喜びを感じる機会になって頂きたいと思っております。これからも一人でも多くのご参加を期待いたします。

若い世代によせたい

後志地区ボランティア連絡協議会

副会長 坂田 愛子

1年の歳月が早いのに気付かされる今日この頃です。

過日、高校生の研究と実績発表会を見せていただける機会があり、とても感動したことは若い方が素晴らしい意欲と実行と共に進めていることでした。

私たち世代は若い方との交流が少なく、なかなかその場面に接することが出来ないことが多いです。今回このような場に接して、そのような機会を作ることが大切なことであります。作ることを進めていきたいと思いました。

これからますますボランティアが必要になることは承知と思って参ります。この大切な絆を強くしなければならない時でもあり、できる限り交流の場を作ることが私達の仕事ではないかと思いをこめています。

心は人に見えないものです。優しさと暖かい心を想って接することが大切であり、つながっていくものと感じております。共に歩み続けて明るく相手の心を大切にし、若い方に頼り頼られながら明るく毎日を送りボランティアの心（精神）繋げられる心を持ち、共に幸せを祈っております。



しりべしのボランティア活動

しりべしでは、様々なボランティア活動が活発に行われています。管内の6町村から、わがまちのボランティア活動をご紹介いただきました。みなさん、いい笑顔で活躍されていますね!!

赤井川村・赤井川村配食ボランティアの会

赤井川村配食ボランティアの会では、毎週金曜日に村内の高齢者に作りたてのお弁当をお届けしています。平成10年に有志のボランティア数名で始まり、今年で活動開始から17年目になります。

調理から配達までをボランティアが行い、毎回約30食のお弁当を社協の車で安否確認をしながら配達しています。一人暮らしの高齢者の方や高齢者夫婦の方を対象とし昨年度は年間で約1200食のお弁当を配食しました。

毎回ボランティアの方たちは色どりや栄養バランスを一生懸命考え、毎回高齢者の方々の健康を願い、美味しいと喜んでいただけるよう頑張っています。



黒松内町・サークル小鳥のうた

サークル小鳥のうたはボランティア活動を目的に設立されたグループで、社会福祉協議会の安否確認事業等にも協力しています。

平成26年12月29日(月)には小鳥のうたの活動の一つとして、おせち料理の配布が行われました。

おせち料理の配布は15年以上続けており、ボランティア活動の一環として、町内の一人住まいの高齢者15世帯にお届けしました。



ニセコ町・高齢者ボランティア

ニセコ町には4つの老人クラブがあります。それぞれの老人クラブでは毎年春になると、花壇の花植えや、道路のゴミ拾い等のボランティア活動を行っています。

花植えは各地域のコミュニティセンターの花壇にて行っており、町内会の懇親会等に、綺麗な花で彩りを添えてくれます。



ニセコ町川北老人クラブの皆様です

京極町・ふまねっとサポーターの会

毎週第2・第4木曜日に町の中心である商工会館で行われるふまねっとサロン。

参加者は20名前後おり、その運営を担っているのが、京極町ふまねっとサポーターの会です。

活動内容は、サロンの進行・参加者の補助・定期的なミーティングなど、会員が運営の主体となっております。

会員は12名おり、全員ふまねっとサポーターの資格を所持しております。

会の発足自体は、平成26年11月からですが、運動自体は平成20年12月から行われており、今活躍されているサポーターも最初は『支えられる側』でした。

ところが回を重ねるごとに、「もっとこのおもしろさを周りの人に広めたい」「昔から地域を知っている私たちが関わることで、参加者を増やしたい」との思いから自費でサポーターの資格を取得。その後も継続的に関わることで、口コミが口コミを呼び、5名の方がサポーターの資格を新たに取得。

今後は1年ごとに1名～2名サポーターを増やして活動の幅を広げていくことで、地域貢献していきたいと考えております。



余市町・余市町ボランティア団体連絡会

「わがまち・ボランティア活動のちから」

平成5年、社協が地域に呼びかけを行い「余市町ボランティア団体連絡会」を設立。多様な団体の賛同を得てスタートした連絡会は、現在13団体となり今年で22年目を迎えます。活動の情報交換や交流を深めると共に各種研修会への参加等が主な目的。地域を取り巻く環境が複雑多様化している中、ボランティア活動に対する意識も年々変化しており、改めてその機能強化を図り、わが町のボランティア活動を支える身近な存在となる様、取り組みを進めて参ります。

第38回
道新ボランティア
奨励賞

=受賞= 俱知安町・琴和ボランティア会

琴和町内会は、「住みたくなる町内会」を目標に掲げ、町内会活動の域を超えて、広く住民に参加を呼びかけようと「琴和ボランティア会」(85名)を組織しています。

体力や機械作業をする男性が主力の「除雪ボランティア」と、その休憩の支度、施設慰問や花壇などの軽作業をする女性が主力の「虹の会」の二手に分かれ、互いが有効に役割を担い協働して活動している他、老人クラブ主宰のサロン活動が活発に行われております。その中でも、除雪ボランティア「ちょぼら除雪隊」は先駆的な活動として注目されています。

(大河原・記)

